

GO TO



# 太陽の家

太陽の家は、北アルプス乗鞍岳を望む風光明媚、良質な温泉が豊富に沸く奥飛騨の地にあります。飛騨の匠で有名な飛騨高山の東に位置し、古代に繋がる神社や遺跡も多く残る歴史の地でもあります。都市と歴史あるこの地を結び、日本の伝統的建築技術を後世に伝えるべく、飛騨の匠と横浜の匠が協力し合い、小林住宅工業の手で2007年に建設されました。この旗鉾の高台にその雄姿を現して早13年、今一度「太陽の家」を検証し、経年により知りえた事、知っているようで知らなかった事などご紹介していきたいと思います。

## ◎ 竣工までの道のり

2007年 3月 地鎮祭  
5月 上棟  
9月 竣工式



## ◎ 太陽の家の概要

<施設名> 自然体験施設太陽の家  
<住 所> 岐阜県高山丹生川町旗鉾 249-5  
<規 模> ●建築面積:132坪 ●床面積:118坪  
<形 態> 木造平屋建て越屋根造り  
<工 法> 大断面架構(大工による墨付け・手刻み)と軸組みプレカットの合体工法  
<設 計> 有限会社槐建築設計事務所(東京都)  
<施 工> 笠原木材株式会社(高山市)株式会社小林住宅工業(横浜市)



## お知らせ

太陽の家は、標高1,000mの地にあり、  
秋はナナカマド等が紅葉し圧巻です。  
太陽の家は、ソーシャルディスタンスにも配慮していますので、是非お出かけ  
下さい!!



## ◎ ご利用について

<アクセス> 中央道松本インターを降り高山方面へ  
高速バス平湯乗り継ぎ寺田前下車  
<設 備> 素泊まり 自炊可  
<申し込み> 株式会社小林住宅工業(045-303-1230)  
<利用料> 1泊素泊まり 3,500円/1人(但し会員外は5,000円/1人)

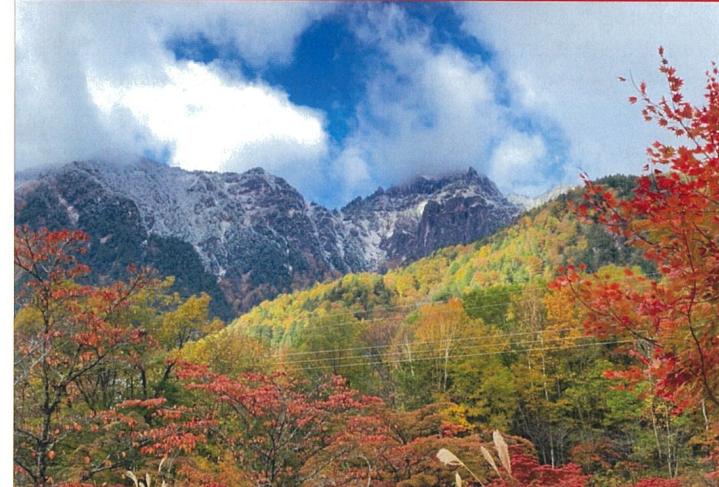
## 編集後記



2009年6月「自然のこころ」第一号が発刊され3号を以って休刊となっていましたが「自然流」の理念を  
更に伝え活動を広めていく為、復刊する事になりました。  
会員の皆様の情報も逐次伝えていきたいと思いますので、ご協力をお願い致します。

# じねん 自然の こころ

04  
2020.11



「自然」とは 全世界 全宇宙の万物はまさに「自ずから然るべく」  
存在し動き流れているという思想です。自然流の会はその「自ずか  
ら然るべくあるがままに」という概念を、日々の生き方、暮らし方の  
規範として捉え、その生活活動を支える会です。

## 目次

- 理事長ご挨拶 柳澤 泰博氏
- 第12回自然流の会総会報告
- 特別寄稿「笑顔が生まれる明るい暮らし」小林 康雄氏
- 自然流健康の家とは「子どもに安心して住める家を残したい」より
- 「太陽の家」紹介
- 編集後記

## ご挨拶

皆様、このコロナ禍の下いかがお過ごしでしょうか。

人々の行動が制限され、これからどのような生活で、このコロナと付き合っていくのか?

不安と手探りの中、日々の生活があり毎日が過ぎていきます。社会活動が規制され人との接触が制限される中、在宅時間が多くなり、益々住まいが果たす役割が大きなものになっております。

一方で大地震の発生も囁きだされ、天候変動は益々過激になってきております。そうした天災に耐える事はもちろん、暑さ寒さの温湿度環境や、日々無意識に吸っている空気環境でも踏まえ、心身にストレスを与えない心地よい家づくりを目指すことが、これからのお住まいにとってより一層重要な事となっていました。ご案内の事と存じますが、私共はこれ迄も人々にストレスを与えない居心地が良い住宅造りに携わってきました。それは「自然流健康の家」として結実しております。これからも「自然流健康の家」普及発展を通じて、人々の生活が安全安心であることは勿論、心に健やかで気持ち良い住まい造りを続けていく為にも、この「自然流の会」の活動がより安定的に活発になることを願い、ここに活動の拠り所として「自然のこころ」を発刊して参ります。

これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

理事長 柳澤 泰博



## ご報告

### 第12回 自然流の会総会決議

本年は「新型コロナウイルス」感染の影響を憂慮し、一堂に会しての開催を断念、文書にてご決済いただきました。

会員 34名中 24名の方々から、5議案全てに対し賛同いただき承認されました。

#### 第12回 自然流の会総会式次第

2020年5月24日

- 【第1号議案】2019年度事業報告（詳細は議案書参照）
- 【第2号議案】2019年度決算報告（同上）
- 【第3号議案】2019年度会計監査報告（同上）
- 【第4号議案】2020年度事業計画（案）
- 【第5号議案】2020年度予算（詳細は議案書参照）

### 【第4号議案】2020年度事業計画（本年度はこの5項目の事業に取り組みます）

#### 1. 自然流の会ホームページの充実

「自然流の家」についての情報や太陽の家生活関連の情報を発信する為、ホームページの充実に取り組みます

#### 2. 機関誌「自然のこころ」の再発行

会員からの情報や、会の活動状況の発信ツールとして、中断していた「自然のこころ」を復刊し、会員間の意思疎通を図ります

#### 3. 自然流の会の勉強会の開催

昨年に引き続き年3~4回開催します

#### 4. 「太陽の家」の活用

小林住宅工業と、十分に連携を取り、体験セミナー等開催、有効に活用してまいります

#### 5. 「自然流の会」と「翠光会」の協働

自然流の家を造る職人集団として関連活動や情報交換をより密にし、協働していきます

## 笑顔が生まれる明るい暮らし

株式会社小林住宅工業

会長 小林 康雄

少し前までは、家で結婚式も行われていたし、家から葬式も出了。そのまた少し前まではお産婆さんが来て家で出産も行われていた。住まいに電気が入り、水道が入り、ガスが入り、生活が効率的に、便利になるに従い、地域の状況も変化し、家族の様々な事が何故か外へと出て行ってしまったように思う。

三月になると女の子のいる家庭はお雛様を飾り桃の節句、男の子は五月になると端午の節句で鯉のぼりを大空に泳がせました。どこの家庭も子供の成長を家族全員が心から祝ったものです。家族の成長や変化を見守ってくれているような安心感が住まいにはあったように思う。



私は家づくりを手掛けているから特にそのように感じるのだろうか。時代と共に日本の良き伝統のようなものがだんだん薄れてきているように思うのは私だけではないのではないか。どちらが良い悪いという話ではないのですが、暮らしが伝統の文化や技術から徐々に離れていき、自然の恵みからも目をそらし、新建材、化学建材で作られた住まいが大手の住宅メーカーにより、当然のように作られていく。地域工務店の出番は殆どと言ってよいほどなくなってしまった。

地球環境や健康といった面から見ても今迄のような暮らしの変化や家づくりの変化が、人が住む社会や暮らしにとって良い変化をもたらしているようには、どうしても思えないのです。気づかぬ間に私も含めて大人達が仕事や遊びに時間を取り、心に潤いを無くしてきているように見える。なぜそのように変化したのだろうか、考えてみるとこれはTVやネットなど広告文化の浸透に伴う情報のスピード化と情報の量、それら全てにスポンサーが付きそのスポンサーの意のままに操られていく大衆。メディアが流す宣伝量に圧倒され日常を考える暇を与えられず、意識が外へと向って行ってしまう現実にあると思われます。

家族団らんや、暮らしの中に日本の良き伝統行事を取り戻すことで、心にもゆとりや潤いが生まれるのではないかと思う。意識を家庭や体内といった身の回りへと向ける時、何か違った価値観が生まれ、異なる世界が見えてくるのではないかでしょうか。そんな間を持つ為にもマスメディアから少し離れてみるのも有効ではないかと思うのですが、如何に？

## 自然流健康の家とは



「子供に安心して住める家を残したい」より

「家」とは本来、人が健康で安心して暮らす為の場所であったはず。それがなぜ色々「健康の家」等と謳う事になったのか？自然流の活動の原点は「シックハウス」即ち健康を害しない住まいを提供する事から始まりました。

自然流の会の創始者でもあり、小林住宅工業会長小林康雄氏が2018年に執筆された「子供に安心して住める家を残したい」にその真髄が網羅されています。そのポイントを数回に分けてご紹介します。（書籍をご希望の方は小林住宅工業で購入できます）